

**特集 :おらほの農地集積】** ~平成 18 年度農業農村整備優良地区コンクール  
**「集落の一致団結した取組み」** 「農林水産大臣賞」を受賞しました！~

のびる  
**野蒜地区**



**1. 地区の概要**

事業名：県営ほ場整備事業（担い手育成型） 担い手農家戸数：5戸2法人5組織  
 関係市町村：東松島市 担い手経営面積  
 関係土地改良区：鳴瀬土地改良区 (実施前)：44.3ha  
 工期：平成5年～平成14年 (H18実績)：111.9ha  
 受益面積：171.5ha 農地集積増加率(H18)：132.0%  
 総事業費：2,760百万円 農地集積率(H18)：65.2%

**2. 地区の現状等**

野蒜地区は東松島市（旧鳴瀬町）の西部に位置し、東側を一級河川吉田川、北及び西側を丘陵地に、南側を東名運河に囲まれた低位湿地帯である。基幹産業は農業で、花卉等の施設園芸と水稲との複合経営が盛んである。農外就労の機会に恵まれていることから、兼業化が進んでおり、近年では農作業の受委託を希望する農家が増加する傾向にある。

本地区では、平成5年度から県営ほ場整備事業（担い手育成型）を開始し、平成14年に事業が完了している。これにより1区画50aの大区画ほ場が形成され、農作業の大幅な効率化が図られた。

また、本事業を契機として、土地利用調整を行うため、各集落ごとに「地区アグリセンター」が設置され、積極的に農地集積活動を図っている。



野蒜地区全景写真

**3. 「農林水産大臣賞」の受賞～平成18年度農業農村整備優良地区コンクール～**

野蒜地区内の一集落である大塚地区の住民を構成員とする「大塚地区アグリセンター」が、「平成18年度農業農村整備優良地区コンクール」(主催：全国土地改良事業連合会、後援：農林水産省)の農業生産基盤整備部門において、最優秀賞である「農林水産大臣賞」を受賞した。

「農業農村整備優良地区コンクール」とは、農業農村整備事業を契機として、生産性や収益性の高い農業の展開を積極的に推進している地区等を対象に実施されるものである。選定区分としては「農業生産基盤整備部門」、「農村振興整備部門」の2部門があり、学識経験者等により構成される選定審査会において審査が行われた結果、本地区の受賞が決定したものである。

受賞に先立つ審査委員の現地視察においては、「地域のリーダーのもと、集落全体の一致団結した取組みは素晴らしい」とのコメントをいただいた。主な受賞理由としては次の2点が挙げられる。



大塚地区アグリセンター



授賞式の様子



現地視察の様子

**(1) 「村ぐるみ手法」の導入**

野蒜地区内の大塚集落（面積35ha、農業者37戸）では、ほ場整備事業の完了と同時に「村ぐるみ手法」を導入し、集落全農家参加の「大塚地区アグリセンター」での話し合いに基づき、公平かつ弾力的な農地の再分配により、連担団地化を図り、効率的な集団転作を行っている。

「村ぐるみ手法」とは、農地保有合理化法人（県農業公社等）が行う農地保有合理化事業の中の一つの農地売買等事業として、地区内のすべての農地を一括して合理化法人に預け、これを地域の話し合いをもとに再配分する手法である。

**(2) 地産地消の取組み**

野蒜地区で生産された大豆は、市内で豆腐や味噌などの加工品として販売しているほか、市内の小中学校の学校給食に利用されている。また、JA女性部による新たな転作作物としての「マコモ」（イネ科、主に中華料理の高級食材として利用）の試験栽培は面積も拡大され、産直施設で販売も行っている。

平成18年10月には、東松島市で「全国マコモサミット」が盛大に開催された。



農作業の様子（大塚地区）



特産品の「マコモ」

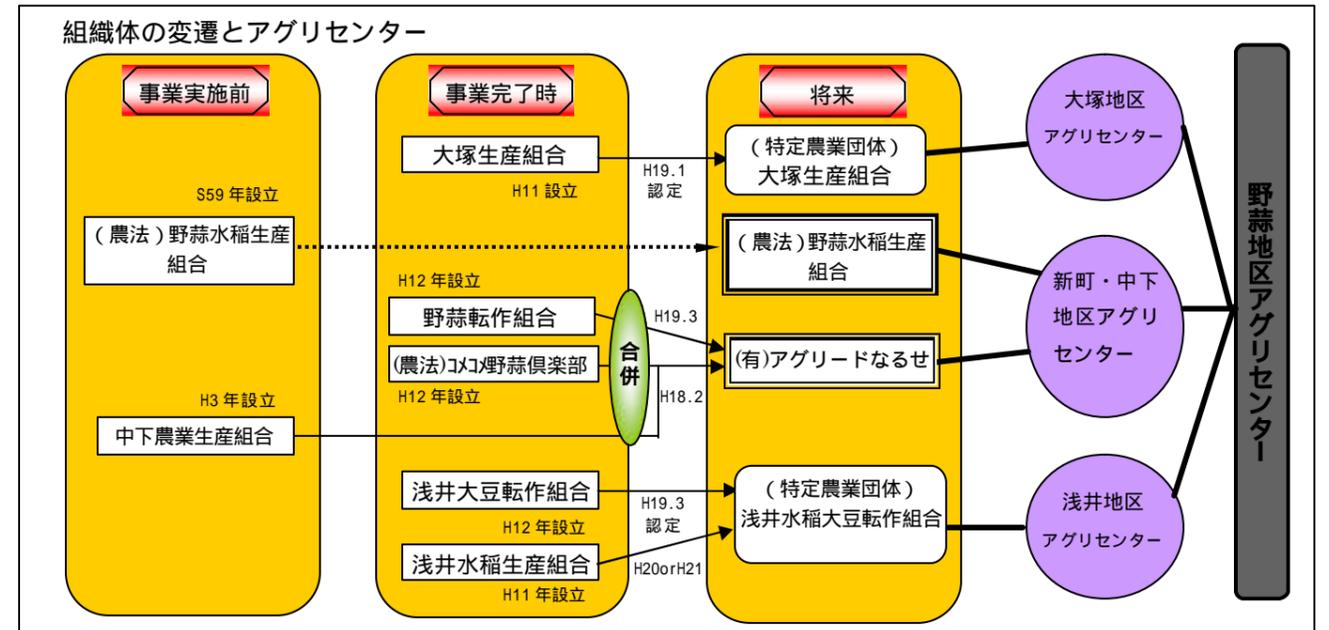


出荷作業（施設園芸）

**4. 生産組織体の増加と品目横断的経営安定対策への対応**

ほ場整備事業開始前には、本地区の組織体の数は1法人1組織であったが、事業完了時である平成14年には2法人5組織と大幅にその数が増加した。

また、平成19年度から実施された品目横断的経営安定対策に対応する為、既存の3つの組織が合併し、「有限会社アグリードなるせ」が設立され、特定農業法人となった。また、大塚生産組合は平成19年1月に、浅井大豆転作組合は平成19年3月に特定農業団体の認定を受け、後者は将来的には水稲中心の浅井水稲生産組合と一本化し、平成22年度までにはすべての組織体が法人化される予定である。



問い合わせ先  
 東松島市農林水産課  
 〒981-0303 東松島市小野字新宮前5  
 TEL : 0225-87-3111 FAX : 0225-87-3830